

財政健全化計画等執行状況報告書

1. 基本的事項

団体名	宮崎県美郷町	会計名	病院事業会計	団体担当者	三股隼人
承認年度	平成20年度				

2. 判定結果

項目	計画最終年度(又は改善額合計)			計画前年度実績(又は補償金免除額)		類型
	目標値	実績値	乖離値	実績値	乖離値	
① 地方債現在高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	a
② 実質公債費比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	a
③ 職員数	32.0	35.0	▲ 3.0	32.0	▲ 3.0	c
④ 改善額	90.0	11.0	▲ 79.0	12.2	▲ 1.2	c
⑤ 公営企業債現在高	393.0	401.0	▲ 8.0	554.0	153.0	c
⑥ 累積欠損金比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	a
				総合判定		c

3. その他

(i) 計画及び前年度執行状況の公表状況

計画:平成20年12月 公表 (HP・広報紙・その他 【 】)
 執行状況:平成25年 9月 公表予定 (HP・広報紙・その他 【 】)

(ii) 計画及び前年度執行状況の議会への説明

計画:平成20年 9月 定例議会にて説明
 執行状況:平成24年9月定例議会 特別委員会等で適宜報告

団体名	宮崎県美郷町
会計名	病院事業会計

類型	a
----	---

① 地方債現在高

(i) 推移表

(単位:百万円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	計画最終年度 (平成24年度)	計画前年度 (平成19年度)
計画目標値(A)	-	-	-	-	-	-
実績値(B)	-	-	-	-	-	-
乖離値(C) (A-B)	0	0	0	0	0	0
乖離率(D) (C/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

(ii) 要因分析

計画最終年度における 未達成の要因	影響額(単位:百万円)					備考	やむを得ない 事情
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
合計	-	-	-	-	-		
うち、やむを得ない事情	-	-	-	-	-		

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

Blank area for discussion on reasons for performance not meeting targets.

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

Blank area for discussion on improvement measures and future outlook.

(v)改善方針の進捗状況

Blank area for discussion on the progress of improvement policies.

団体名	宮崎県美郷町
会計名	病院事業会計

② 実質公債費比率

類型	a
----	---

(i) 推移表

(単位:%)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	計画最終年度 (平成24年度)	計画前年度 (平成19年度)
計画目標値(A)	-	-	-	-	-	-
実績値(B)	-	-	-	-	-	-
乖離値(C) (A-B)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
乖離率(D) (C/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

(ii) 要因分析

(単位:百万円、%)

係数項目	平成22年度				やむを得ない事情	採用係数
	計画目標値(A)	実績値(B)	乖離値(A-B)	乖離要因		
地方債の元利償還金						
準元利償還金						
地方債の元利償還金又は準元利償還金に充てられる特定財源						
普通地方交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金						
標準財政規模						
単年度実質公債費比率					単年度再算定比率	

係数項目	平成23年度				やむを得ない事情	採用係数
	計画目標値(A)	実績値(B)	乖離値(A-B)	乖離要因		
地方債の元利償還金						
準元利償還金						
地方債の元利償還金又は準元利償還金に充てられる特定財源						
普通地方交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金						
標準財政規模						
単年度実質公債費比率					単年度再算定比率	

係数項目	平成24年度				やむを得ない事情	採用係数
	計画目標値(A)	実績値(B)	乖離値(A-B)	乖離要因		
地方債の元利償還金						
準元利償還金						
地方債の元利償還金又は準元利償還金に充てられる特定財源						
普通地方交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金						
標準財政規模						
単年度実質公債費比率					単年度再算定比率	
実質公債費比率					再算定比率	

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

Blank area for discussion on reasons for performance not meeting targets.

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

Blank area for discussion on improvement measures and future outlook.

(v)改善方針の進捗状況

Blank area for discussion on the progress of improvement policies.

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

町内には、西郷病院・南郷診療所・北郷診療所の3つの医療施設があり、合併当初は北郷診療所は公設民営で運営されていたものの、医師の退任により平成21年度からは、公設公営で新たな医師を迎え入れて運営している。南郷診療所においては、平成22年度より今ままで常勤2名体制であった医師が1名体制になり、外来や病棟での診療に不都合起こる可能性が出てきた。このため西郷病院からの医師派遣体制や町全体としての医師確保対策、町内3医療施設の運営等においてスムーズな解決を図る必要が生じたため、平成22年4月に美郷町地域包括医療局が設置された。この医療局の設置に伴い事務職は西郷病院との兼務となることから、従来どおりの業務に加え医療局としての事務量増加に対応するため計画目標値よりも1名の増となった。10対1入院基本料の算定基準をクリアするため、これまで不足する看護師においては、正職員としてではなく、臨時職員として補充を実施してきた。しかし応募者がほとんどなく看護基準ぎりぎりでの対応となっていた。そのため急遽平成23年度中に看護師採用試験を実施したところ、4名の応募があり、3名の看護師を採用した。今後も病院・診療所間での人事異動や臨時職員の雇用で確保を図っていく予定であるが、今年度から新たに一般病棟看護必要度評価に係る作業が追加され、病棟の看護師への負担が増加しており、今のところ人員の削減は大変難しい状況にある。また、医師確保においては、県医師確保対策協議会と連携し地道に取り組んできたことが実を結び、平成24年度から町採用として1名の医師を確保することができた。当院では従来より勤務医と県からの派遣医師(自治医大卒)で何とか業務をこなしており、これからも住民が安心して医療が受けられる体制を整備することができた。

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

平成23年度までは、計画に比べて看護職員数が1名多い状態が続くが、平成24年度には定年退職や病院間の移動によって解消される予定である。やむを得ない事情(医師確保・各病院間の調整のために増加した地域包括医療局分の事務職員1名増)を除けば計画目標値を達成する見通しである。医師確保による医師の増や平成24年度の診療報酬改定により、10対1入院基本料に含まれる一般病棟看護必要度評価加算に係る看護師の作業量増加で、人員削減は大変難しく、臨時職員での対応も厳しい状況であるため、やむを得ず目標達成は不可能である。定年も含めた退職者の補充に対しては、町内医療機関の異動や新規採用等により適正配置を実施していく。

(v)改善方針の進捗状況

計画では、不足する看護師については、臨時職員としての補充を考えていたが、町内はもとより近隣市町村からも、応募者がほとんどおらず、確保に大変苦慮している現状である。やむを得ず正職員として採用を実施したことにより、計画達成は困難である。

団体名	宮崎県美郷町
会計名	病院事業会計

類型	C
----	---

④ 改善額

(i) 推移表

(単位: 百万円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	改善額合計	補償金免除額
計画目標値(A)	14	15	18	20	23	90	12.2
実績値(B)	13	1	10	1	-14	11	
乖離値(C) (B-A)	▲ 1.0	▲ 14.0	▲ 8.0	▲ 19.0	▲ 37.0	▲ 79.0	▲ 1.2
乖離率(D) (C/A)	-7.1%	-93.3%	-44.4%	-95.0%	-160.9%	-87.8%	-9.8%

(ii) 要因分析

計画最終年度における未達成の要因	影響額(単位: 百万円)						備考	やむを得ない事情
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	合計		
入院・外来患者の確保(人口の減少)	1	2	2	7	8	20		23
入院・外来患者の確保(流行性疾患)	6	7	2	7	13	-		×
処方間隔の延長(2週間から1ヶ月)	7	17	17	17	17	75		7
難病患者の受入による薬品費の増加	-	-	-	-	10	10		4
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
合計	14	26	21	31	48	140		
うち、やむを得ない事情	8	19	19	24	35	105		

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

患者1日あたりの収入については増加しているが、過疎化による人口の減少による自然増減の影響が大きく、平成20年度に計画した目標値には入院・外来ともに届かない見込みである。医療法の改正前までは2週間処方しかできなかったが、改正により1ヶ月処方が可能となった。当院では本計画策定期間までは患者の様態変化等に対応するため、2週間処方としていたが、患者の高齢化により、通院の軽減を図る必要があり、徐々に1ヶ月処方に切り替えていった結果、収益が減少した。(当初の計画では、平成22年度の外来収益は、入院・外来収益を合わせた423,000千円のうち185,000千円(44%)を見込んでいたが、1ヶ月処方への切替により、実績では166,459千円となり、約17,000千円の影響があった。また、過疎化による人口減少において、外来収益で約2,000千円の影響があった。また平成23年度では、外来収益は176,640千円で、1ヶ月処方への切替により約17,000千円、過疎化による人口減少においても、外来・入院収益を合わせ約7,000千円の影響があった。平成24年度においては、2週間に1回、宮崎市内の病院まで自家用車で通院されていた難病の患者負担を軽減するため、当院にて受入を開始したが、その治療に使用する薬品代が月約2,800千円程かかっており、当初見込んでいた薬品費の改善予定額よりも、22,000千円程下回る結果となった。但し、その分外来料金収入は増収となっているため、やむを得ない事情による影響は、約10,000千円程度と思われる。その他、人口減少による影響で8,000千円、流行性疾患による影響で13,000千円、処方間隔の延長で17,000千円の影響があった。

(iv)改善に向けた取組及び今後の見直し

外来収益については、慢性疾患患者の処方間隔が伸びたこと等により、暫減傾向にあるが、全国的な医師不足の中、へき地での地域唯一の医療施設として、その機能を維持することにより、1人あたりの収入の増に努める。また、昨年度計画の見直し(追加)を行った費用削減(薬品代、診療材料代)においては、22年度の改善目標13,000千円に対して実績が15,000千円で2,000千円程計画を上回ることができた。平成23年度においても、費用削減の改善目標13,000千円に対して実績が14,000千円で計画を達成することができた。今後も消耗品、燃料費等の維持費の削減や委託料、賃借料についても院内会議等で啓発を行い費用削減に取り組む。平成24年度においては、薬品費は増加したものの、その他の経費削減は、概ね目標を達成する事ができた。

(v)改善方針の進捗状況

上記の理由により今後も収益の増加は見込めないが、昨年度フォローアップで追加・変更した目標値については、計画通りとなっている。

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

へき地・離島にはなかなか医師が集まらず、これまでも様々な方法で医師確保に努めてきたが、平成23年度途中に、県外の診療所で勤務されている医師が次年度から当院で勤務して頂けることとなった。そのため、医師住宅の建設が必要となり、財務課との協議・調整により起債にて用地購入と建設工事を実施した。また、24年度においても、公共交通機関の利用が困難で、町の医療機関から車で30分以上離れた地域を対象に、巡回診療をスタートさせており、その際に使用する移動式のデジタルエコーの購入と、手術室で使用しているX線透視装置が購入から20年以上経過し、故障が頻繁に発生していることから、機器の更新を予定している。購入の際には、国保調整交付金を申請することになっているが、一部は起債での対応を考えている。機器の新規購入ならびに更新においては、過疎計画等の計画に準じて実施しており、高齢化が進む町内の住民が安心して生活することができて、かつ精度の高い検査が受けられる環境を整備するための借入でありやむを得ないとする。ちなみに平成24年度の当初計画では、10,000千円(過疎債5,000千円、公営企業債5,000千円)を起債予定であったが、町財務担当と協議の結果、公営企業債の5,000千円のみ借入となり、残りは内部留保資金で対応した。

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

現状では平成23年・24年度のやむを得ず借入した企業債以外の新規借入予定はないが、今後機械故障等の突発的な事例が発生することも予想され、計画的な更新等に努める。

(v)改善方針の進捗状況

団体名	宮崎県美郷町
会計名	病院事業会計

⑥ 累積欠損金比率

類型

a

(i) 推移表

(単位:%)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	計画最終年度 (平成24年度)	計画前年度 (平成19年度)
計画目標値(A)	-	-	-	-	-	-
実績値(B)	-	-	-	-	-	-
乖離値(C) (A-B)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
乖離率(D) (C/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

(ii) 要因分析

(単位:百万円、%)

	計画最終年度(平成24年度)		再算定値
	計画目標値(A)	実績値(B)	
分母(営業収益等)			
分子(累積欠損金)			
累積欠損金比率			

分母悪化要因

(単位:百万円)

要因	影響額(百万円)	備考	やむを得ない事情
合計	-		

分子悪化要因

(単位:百万円)

年度	純損益		乖離値(A-B)	乖離要因	やむを得ない事情
	計画目標値(A)	実績値(B)			
平成20年度					
平成21年度					
平成22年度					
平成23年度					
平成24年度					
合計			-		

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

--

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

--

(v)改善方針の進捗状況

--